

潮 流

人口増加と我々の努力の方向

調査第二部副部長 渡部 喜智

世界人口は現在、約 65.5 億人と言われ、世界人口時計は 1 分に 150 人の速さで人口増加を刻んでいる。

それでは、今からほぼ半世紀前の 1950 年の世界人口はどれ位だったか？

地球上には正確な戸籍や出生・死亡届など無きに等しいところも多い。前述の 65 億人という世界の人口数も、あくまでも「推計」である。ましてや半世紀前であるから、その推計の精度は一段低いかもしいが、国際連合・人口部によれば 25 億人だったという。ちなみに、トマス R. マルサスが『人口論』を著した時期の 1800 年頃の世界の推計人口は 10 億人であった。

現在 65 億人であるから、半世紀ちょっとで約 40 億人増加したことになる。それでは、国際連合（2004 年推計）は 2050 年の世界人口をどのように予測しているか、といえ、その答えは 90 億人超である。

先進国では、最近 3 億人に達したと云われる米国の人口がさらに 1 億人増加し 4 億人目前になる予測であるが、日本はご案内のように約 1 億人にまで減少。欧州も減少し先進国全体の人口はほぼ横ばいにとどまる。また、中国は 2030 年ごろをピークに減少に転じ、現在に比べ 77 百万人増加の 13 億 92 百万人にとどまる見通しである。それでは、25 億人の人口増加予想のうち、どこで増えるのかといえ、約 10 億人はアフリカ地域、13 億人がアジア地域の経済発展によってもたらされるという予測だ。

さて、人口増加がこの予想どおりならば、どうなるか。確実なのは食料や水を含む資源への需要増であり、CO₂排出や有害物質の撒布など自然環境の破壊のリスクである。

人類は英知をもって前述のマルサスが予言した「人口の罠」の成長にかかわる資源制約を回避してきた。日本に関して見ても、本誌『原油価格の高騰と産油価格・消費国間の経済的影響』の分析に示されるように、1970 年以降、第一次、第二次の石油危機と湾岸戦争、そして最近の高騰相場を経て、先進工業国の OPEC に対する交易条件はほぼ 70 年の約四分の一に低下（悪化）したが、省エネ、技術革新、産業構造の高度化によって、先進国は成長率を低下させたものの、絶対的な生活水準は向上させることができた。

しかし、90 億人の世界人口を賄うだけの、エネルギーや食糧の供給が安全面を含め低コストでかつ量的にも確保される保障はない。人口増加に伴い自国消費に回す化石燃料や農林水産物が増えれば、国際貿易の対象になる割合は低下し、日本にとって安全保障の危機も現実の問題となる。

人類は、大量破壊兵器を作るのに英知を傾けるような愚かなことは止めて、資源制約を克服するような科学技術の開発に努力を傾注すべきであろう。また、日本の環境分野の先進技術の開発など、一層資源制約の克服に向けた技術開発に力を入れて世界平和と人々の生活向上に貢献することが重要だ。